

書幅二点解説

木許 博

(会員 佐伯市木立)

◎矢野龍溪の筆跡

(直入町首藤勝次氏所蔵)

秀絶風神雪白衣

秀絶たる風神 雪白の衣。

飄然月下带雲悔

飄然月下の帯雲を悔ゆ。

軒車恐爲高人笑

軒車は高人に笑われんことを恐る。

好向秋天静雲飛

好し秋天の静雲に向かつて飛べ。

詠鶴 龍溪矢野文

鶴を詠ず 龍溪矢野文雄

【語注】

・風神 すがた風格

・飄然 ひるがえる姿

・軒車 反りのある白い屋根のついた車 (後記)

・爲ル (れる) 受身の働きをする語

・「高人」 原憲をさす。高士、高潔にして志高く節

を守って官に仕えない者。

※軒車 (出典) 「龍溪は鶴の姿を莊子に出てくる軒車

になぞらえている」

「漢文大系」(「莊子」下 讓王第二十八)

「原憲居魯：子貢乘大馬中紺而面素 軒車不入巷往見原

憲。原憲曰く「私は貧乏はしているが病みつかれてはい

ない：君のように仁義の道を学んで実行できないのを、

病みつかれているというのだ。」子貢 逡巡而有愧色

(子貢は後ずさりして恥じ入るようすであった。) 原憲笑

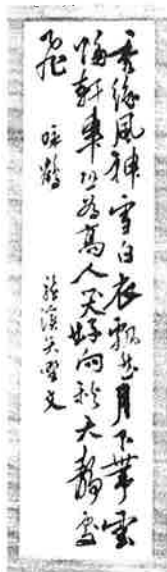
いて曰く「仁義の看板をにかけて悪事を働き自分の馬車

などを飾りたてる、君のようなやりかたは私にはとうて

いできない。」

※莊子 周の莊周著、孟子と同時代 ※大馬 二りつばな馬の

引いた車 ※中紺而面素 内側は紺色で屋根は白



矢野龍溪の書幅

◎善教寺布岳の筆跡

(狩生野々下静氏所蔵)

一帯宝冠瑤瑤鮮

一帯の宝冠瑤瑤鮮かなり

天童来繞大師前

天童来り繞る大師の前

中興遺徳君看取

中興の遺徳君看取せよ

窃窈春風四百年

窃窈 春風 四百年

六十七翁布岳

【語注】

・宝冠 寶石で飾った冠

・瑤瑤 貴金属を編み頭、首、胸にかけた装身具、仏像の装身具

・天童 護法の鬼神、天人などが童子の形をして人界に現れたもの

・大師 大道師、①仏の尊称、②朝廷から高僧に賜った号、③弘法大師

・中興 善教寺はもと古市にあり、慶長七年(一六〇〇)

(一) 中興釈行念と伝える。寛永十九年(一六四二)

(二) 城下(現在地)に移った。数度の大火に類焼しその都度再建され現在に至っている。

あとに残した人徳、めぐみ

・遺徳

・看取

見てそれと知る。

・窃窈 山水、宮殿などの奥深いこと、美しくたおやか(美人)

か(美人)

・四百年 このとき布岳六十七歳(一八九八)行念中興

から二九八年だが、創建からは四〇〇年となる

のであろう。

【解釈】 本堂、祭壇、仏像など堂内はすべて宝石の輝く冠

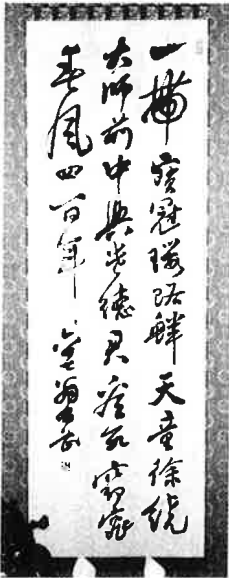
がかがよい、諸仏の装身は目を見張るきらびやかな美しさである。童子の形をした鬼神や無数の天人がみ仏の周りに群れ集まってまことに壮観。中興開基の成したため

みは今まさに目の前に見えてその偉業がしのばれる。尊

く奥深い恩恵や教化をいただいでここに創建四百年の慶

事を寿ぐのである。

六十七歳の老布岳記す。



善教寺布岳の書幅